



木の住まいと住まい手 ①

地元産の自然素材と  
自然エネルギーを  
活用した家

鹿児島県・有川邸

九州南部特有の明るい日射しにあふれた鹿児島県曾於市に建つ有川邸は、若いご夫婦が、子どもたちの成長とともに住みこなしていく、シンプルな建物である。南側を広く開放した総2階建の上下階は、独立性と家族のつながり(公共性)がバランスよく設計されている。設計・施工に携わったのは(株)松元建設。有川さんのご実家の改装での丁寧な仕事ぶりが気に入った、お母様の勧めが御縁だそう。松

元建設は創業以来一貫して地元産の自然素材にこだわり続け、自然エネルギーの活用にも力を入れている。有川邸の片流れの屋根に設置されたソーラーパネルは、家計にも環境にも優しい省エネ効果をもたらしている。

家に入って最初に気がつくのは、木の香りと、無垢の床板の肌触り。杉の木目の堅い部分だけを浮き彫り状に残す「浮造り」加工の床は、素足の感触が心地よい。和室やリビングの壁は地元産のシラス壁。火山の噴火で出来たシラスは消臭機能や空気の浄化機能・調湿機能を併せもった100%の天然素材で、左官仕上げのラフな表情が暖かみを与えている。断熱材にも天然系素材であるセルロースファイバーを採用。壁内に隙間なく充填することによりシラス壁との相乗効果で古来の民家の土壁のような働きが生じ、夏でも室内に入るとひんやり。風のよく通る設計もあいまってほとんどエアコン要らずとのこと。自然素材で家を作る意義を再認識させられる。

「建築費は少し高くなっても、将来を長い目で見れば自然素材がよい」という松元社長の信念のもと、住まい手と作り手が一体となって、理想の住まいが実現した。



上：屋根勾配を生かした梁の現しがダイナミックな空間  
下：天井まで杉の無垢板張りのアクセント壁が空間に華を添える



シンプルな外観。軒を支える方杖が力強い

DATA

所在地：鹿児島県曾於市  
構造：木造在来工法2階建  
竣工：2011年2月  
設計・施工：株式会社松元建設